

SHOW HEY シネマルーム

★★★

思い出の夏

(王首先的夏天/HIGH SKY SUMMER)

2001年・中国映画・87分

配給/ワコー

2004 (平成16) 年7月19日鑑賞

<シネ・ヌーヴォ・中国映画の全貌2004>

Data

監督：李継賢（リー・チーシアン）

出演：魏志林（ウェイ・チーリン）

／成太生（チョン・タイシヨ

ン）／劉世凱（リウ・シーカ

イ）／李万全（リー・ワンチ

ュアン）

👁️👁️ みどころ

明の時代の城壁が残る山西省の農村に映画の撮影隊がやってきた。子役に登用された主人公は懸命の演技を示すが、都会での生活を諦めて村に戻るというセリフに納得できずトラブル続き……。中国における都市と農村、少年の理想と現実を「ひと夏の思い出」の中にシンプルに描いた心温まる佳作。

<城壁のある田舎の村は？>

この映画は貧しい農村がテーマ。貧しい農村からいったん都会に出ていった場合、その人は都会で何かトラブルがあれば村に戻ってくるだろうか？主人公の小学生ショーシェン（魏志林／ウェイ・チーリン）のそんな質問に対する村人たちの答えは、大人も子供も全員NO。とにかく、いったんこの貧しい村を抜け出して豊かな都会の生活をする事ができるようにになれば、2度と村に戻ってくる気などないというわけだ。

このテーマをスクリーンに描き出すために李継賢（リー・チーシアン）監督が選んだ村は、山西省大同（ダートン）の新栄区の村。ここは、明の時代の城壁があり、戦争時代には兵隊が屯田していた名残が残っている田舎村。

<強くうかがえる（？）張藝謀監督の影響>

田舎の農村の小学校が舞台となると、思い浮かぶ中国映画の名作は、張藝謀（チャン・イーモウ）監督の『あの子を探して』（99年）と徐耿（シュイ・コン）監督の『草ぶきの学校』（99年）。イメージとしては、この映画もこの2つの名作と非常によく似ている。そのうえ、この大同の新栄区にある田舎の村で久しぶりに上映された映画会での「出しもの」が、張藝謀監督の『キープ・クール』（97年）というのが面白い。『キープ・クール』

は、張藝謀監督作品の中でもかなりの異色作。北京の大都会が舞台だが、ヒロインのアンホン（鞆頰／チュイ・イン）が住む超高層ビルの威容や超ミニのワンピース姿で自転車に乗って疾走する姿などは、こんな田舎村では想像もできないシーンのはず。もっとも、主人公の趙小帥（チャオ・シャオ）を演じる中国の名優姜文（チアン・ウェン）が、高層ビルに住むアンホンに向かって何度も何度もマイクで呼びかける姿は実に滑稽なものだけに、村人たちの笑いを誘っていたが・・・。

<映画上でのセリフにこだわる意味は？>

前述のように、この映画のテーマは、主人公のショーシェンが「村に戻ってくる！」というセリフがウソだからどうしても言えないということに象徴される、貧しい農村。しかし、どうもこの設定には少し無理がある。なぜなら、映画はあくまで映画であって、架空の世界をつくり出すもの。いったん都会に出たら「村に戻ってくる！」とは村の人なら誰も言わない。したがってそんなセリフを言うのは嫌だということであれば、「君が好きだ」とか「君を愛している」とかのセリフもみんなウソに決まっている。まあ、そんな理屈を言ってしまえばこの映画の前提そのものを否定することになってしまうので、それは言わないとしても、多少ストーリー構成に無理があると思うのは私だけだろうか・・・？



【思い出の夏】(C)2001 中国電影集團公司第三製片分公司
ビデオS・D・V 販売元：マクザム <http://www.maxam.jp>

<後半の旅の物語の意味は？>

この映画の後半は、「村に戻ってくる」というセリフを言えないショーシェンの起用を諦めた撮影隊が次に向かったホウブー村まで、ショーシェンが露出計を届ける旅の物語。映

画の撮影中、世話になり迷惑をかけた助監督がこの村に露出計を置き忘れたことを発見したショーシェンは、直ちに自転車に乗ってハウプー村に向かって旅立った。学校を休んで必死で自転車をこぎ、自転車がパンクすると石灰を積んだトラックの荷台に乗り、石灰にまみれながら露出計を助監督に届けようとするショーシェンの一途な努力は一体何のためなのだろうか？実はこの映画ではその回答はよくわからない。張藝謀監督の『あの子を探して』での、13歳の臨時教師の魏敏芝（ウェイ・ミンジ）が、都会に出稼ぎに行ってしまった張慧科（チャン・ホエクー）を探しにいく旅と、この映画でのショーシェンが撮影隊のいるハウプー村へ露出計を届けにいく旅とは全く異質のものだろう。李継賢監督は、ショーシェンの映画に出演したいという願望やそれが叶わなかった時のひたむきさを訴えたかったのだらうと思うが、果たしてその試みは成功しているのだろうか？

2004（平成16）年7月20日記